

第9回 富士見市地域公共交通会議会議録

会議の名称	第9回富士見市地域公共交通会議		
開催日時	平成30年5月21日（月）	開会	午前10時00分
		閉会	午前11時40分
開催場所	全員協議会室	出席者数	委員定数20名中 出席者17名
出席者	委員	大久保勇次委員、清水実委員、酒本孝委員、白砂栄子委員、 山科和仁委員、鶴岡洋委員、三上秀樹委員、高原昭委員、 真家正人委員、板谷和也委員、青木宏之委員、岡戸豊委員、 藤倉英行委員、浅井義明委員、水口知詩委員、大森重治委員、 斉藤寛委員 ※欠席 島田アサ子委員、照井誠委員、金井正義委員	
	事務局	【事務局職員】 柴崎建設部長、落合建設部副部長、近藤交通・管理課長、 吉田交通・管理課副課長、川村交通・管理課主査、 堺交通・管理課主任技師	
配布資料	【会議資料】 第9回富士見市地域公共交通会議 次第 第9回富士見市地域公共交通会議 席次表 第9回富士見市地域公共交通会議 出席者名簿 富士見市地域公共交通会議委員名簿 資料1 デマンド交通に関するアンケート調査について（結果） 資料2 デマンド交通実証運行のまとめについて 資料3 市内公共交通の見直しに向けて 資料4 登録・利用状況図		
公開・ 非公開	公開（傍聴 8名）		

会 議 事 項

1 開会 柴崎建設部長

2 会長あいさつ 浅井会長

3 議事

(1) デマンド交通に関するアンケート調査結果について

会議資料により事務局から説明。

質疑応答

委 員：駅から少し離れている地域のデマンド交通の利用者が多いのはわかりますが、駅からもっと遠い地域のデマンド交通の登録率・利用率が低いのは、意外であり、こういう地域の需要が高いと思っておりました。その要因は、それらの地域が自動車文化なのか、路線バスが運行しているからなのか、教えていただければと思います。

事務局：デマンド交通の運行結果として、市内全域において利用がありましたが、登録率や利用率に差があるのは、周知不足だったのか、利用がしにくかったのかなどが想定されますが、直接的な要因については、今後検討が必要であると捉えています。また、資料3の別紙1の図のように、バス路線については、運行本数に差があるものの運行している地域もございます。

委 員：アンケートの問13の回答で『通院（市内）』という回答が多くあり、そういう人たちの利用が多いのはわかりますが、交通弱者を助けないというわけではありませんが、あまりにも多すぎると考えます。デマンド交通を運行する前は、これらの結果を予想していたのか。

事務局：デマンド交通の運行補助の予算は、約1,400万円を計上しており、実際には、約1,040万円であったことから、利用件数などについては、想定していた範囲内であったと捉えています。利用者については、実際に運行してみないことには、わかりませんでした。少なからず予測したのは、運行時間から考え、日中働いている人の利用は少ないと推測しておりました。

委 員：通院に利用する方だけではなく、もう少し分散して利用があっても良かったのではと個人的に思いました。

- (2) デマンド交通実証運行のまとめについて
- (3) 市内公共交通の見直しに向けて

会議資料により、(2)、(3) 一括して事務局から説明。

質疑応答

委員：デマンド交通の運行期間中、既存バスやタクシーに影響はあったのか。

事務局：前回の地域公共交通会議において、民間路線バスの一部の路線について、運賃収入が前年同月比で、若干減っているとの意見がありました。また、市内循環バスにつきましては、デマンド交通実証運行期間の前年同月比で増加している月もあれば、減少している月もあるため、これらの結果がデマンド交通による影響であるとは一概には言えないと考えております。タクシーにおいては、タクシー事業者に聞いた話によると、今までタクシーを利用していた人がデマンド交通を利用したという方が多いため、一度に増加したとは聞いておりません。

委員：今後、デマンド交通を実施するならば、他の交通手段への影響を調査して欲しいと思います。

委員：アンケートにおいて、デマンド交通の利用者の内、30%の方が今までタクシーを利用していた方であるが、多少でもタクシーを利用する人が多くなったとデマンド交通運行後でも思います。また、アンケート結果より、運行時間帯により往復でデマンド交通を利用できないということで、行きはタクシーで、帰りはバスなどを利用するなどの手段が取られているということで、少しでも市民の外出の助けにデマンド交通がなれたのかなと認識しています。デマンド交通では、病院を利用している方や移動が困難な方が多く利用されていると思われまますので、今後、デマンド交通を実施した場合は、それらの人に向けて利用回数を制限しないで運行した方が良いとは思っています。しかしながら、ヘビーユーザーがいるので、一概には言えないと思いました。

委員：デマンド交通は、一部の方が多く利用しているのが現状であり、多く利用した方が本当に1人で利用していたのか、正しい目的のために利用しているのか、不正利用はないのかなど、利用状況は把握しているのか。

事務局：デマンド交通は、運行システムを導入しており、氏名、住所、電話番号等の個人情報をシステムに登録いたします。利用者は、必ず電話をする必要があり、電話をした時点において、登録した電話番号からの場合は、どなたから電話がかかってきたのか判断が出来るようになっております。また、登録がない電話番号からでも、氏名、住所などにおいて、本人確認を取ることや自宅の利用が多いことから、登録していない人は利用できないと考えております。

委員：今後、デマンド交通を実施し、利用対象者等を制限した場合、他の人が利用できないようなシステムを構築する必要があると考えます。

会長：大変重要な意見をいただきました。実は、市内循環バスの特別乗車証も同様の問題があると考えますので、市としても公平性の観点から、一括して検討していく必要があると考えております。

委員：今後の課題として、バス路線の有無に関係なくデマンド交通の利用があったこと、市内循環バスと民間路線バスが重複している地域があることなどだと思います。また、市内循環バスの利用料金については、民間路線バスや近隣自治体と比較し検討する必要があるのではと思います。市境の地域ということで、市境の人が市外に生活圏内があり、その方が大多数であれば、近隣自治体と調整していくことも検討してみても良いのではと思います。

委員：市内循環バスの一般利用者が減っている理由は。

事務局：推測ですが、平成 27 年のららぽーと富士見開業に伴い、民間路線バスが新たに参入したことにより、市内循環バスの利用者が民間路線バスに移行しているのではと考えております。

委員：アンケート結果からもデマンド交通の要望が多く、高齢者の利用も多い、ドア to ドアが評価され、利便性も高い、免許返納率も高いことから、是非、デマンド交通の本格運行を検討していただきたい。

会長：デマンド交通は、人口の 2% 弱の利用しかありませんでした。市としては、集会所での説明会や町会長連合会などの団体に働きかけをした結果、登録者数はかなりの数がありましたが、実際利用した方は少なかったのが現実でした。その一部の人を市がどこまで助けるのか、福祉政策として一緒にやった方が良いのではという考えはありますが、この会議の場は、福祉の問題ではなく、公共交通を議論していく場でありますので、次回、その観点から市の考えをお示しできればと考えております。

委員：今後、デマンド交通を本格運行する場合、市境をどうするのか。また、デマンド交通とバス路線を加味した交通ネットワークを構築し、不便がないように、公平で地域により不利益がでないような未来図を作成していただきたい。

副会長：デマンド交通実証運行は、全市民を対象にし、また、利用回数の制限なく行ったことで、現状の交通に対するニーズが得られた結果であると思います。広報についてもこれ以上にならないくらいやっていただき、周知はしっかり行ったと思います。その結果が、登録者数であり、デマンド交通に対するニーズが登録者数ぐらいであると捉えて良いと思います。これだけの需要があれば、本格運行をした方が良いのではと思います。登録率が高い地域は、既存のバス路線では行きたいところに行けない地域なのではと思い

ました。それらは、バス本数が少ないのか、目的地が違うのか、わかりませんが、デマンド交通を利用できれば利用したいと思い、登録をしたのかなと推測します。例えば、上南畑地域では、バスは運行していますが、鶴瀬駅まで直接行きたい、30分に1本程度運行して欲しいと思っている方々が利用できないのが反映されているのではないかなどが考えられ、バスを見直す地域なのかもしれません。また、登録数が多く、利用者数が少ない地域、例えば、下南畑や水谷東地域は、利用しにくい理由があるのではと思います。地域的なことで想像するに、柳瀬川駅や志木駅など市外に行きたいのではないかと考えます。行きたいところに行けないから利用しないをなるべく少なくする。一方で、手広く行くと費用や公平性の問題も生じてきますので、検討が必要であると考えます。デマンド交通は登録を必要としますので、これらの地域には、特定の行き先を追加するなどの方法も考えられます。実験では、利用回数の制限はありませんでしたが、利用回数は、制限した方が良くと思います。交通に不便を感じている方は、年齢だけでは区別ができないと考えておりますので、利用対象者を制限するのではなく、利用回数を制限することでも、経費を抑えることができます。個人的は、年間24回が良いのではと考えます。市内循環バスの利用状況については、全体ではなく、路線別の増減を明記して欲しいと思います。見直しについては、路線の利用状況により、一部若しくは全体に減っているのかで見直し方も違ってきます。改善策として、利用料金の値上げも1案であり、高齢者が必ずしも無料でなくても良いと考えます。市内循環バスの利用料金を200円にして、高齢者を半額の100円にしても、サービスとしては十分であると考えられます。理想は、ふじみ野市と三芳町の2市1町を面で交通を考えられれば良いと思いますが、事務的にも大変であり、時間もかかることから、まずは、市内の移動の改善をしていく必要があります。交通手段については、小型ワゴンなども想定手段に入れていただき幅広い手法で考えていただき、地域にあった交通手段の案を次回出していただき、協議していければと良いと考えております。

4 その他

事務局：次回の会議日程は、7月下旬から8月上旬ごろを予定しております。

5 閉会 柴崎建設部長